

有症状の逆流性食道炎患者における Barrett 食道

Barrett's esophagus in patients with symptomatic reflux esophagitis: Mann NS, et al (Am J Gastroenterol 84: 1494-1496, 1989)

Barrett 食道 (BE) は多くの場合、慢性の胃食道逆流の結果起こるとされ、内視鏡的に評価された逆流性食道炎における BE の頻度は 4~20% と言われているが議論のあるところである。

この研究では逆流性食道炎の症状を有する患者が臨床的にまた食道内圧測定により評価された。下部食道括約筋 (LES) の最大括約筋圧帯 (PSPZ) が同定され、内視鏡下生検が PSPZ とその 2 cm, 4 cm 口側の 3 点の前後壁、左右壁の計 12 か所で行われた。食道炎の重症度は内視鏡スコア (微小潰瘍、脆弱性、線状潰瘍は 1 点、食道の消化性潰瘍は

2 点、食道狭窄は 2 点) により記録された。どの生検標本にも円柱上皮が認められた症例は BE と考えられた。平均 LES 圧と食道炎の内視鏡的な重症度スコアが BE 患者と BE のない食道炎 (NBE) の患者について測定、計算された。BE 患者は制酸剤と cimetidine が投与され、3 か月後、6 か月後に再度食道内圧測定と内視鏡下生検が行われた。

その結果、180 人の男性患者を認め、20 人 (11%) が BE を有していた。BE は 19 人が白人で、NBE は 126 人が白人であり、BE に白人の割合が高かった。平均年齢は BE が 64.80 ± 7.30 歳、NBE 62.50 ± 8.60 歳で有意差はなかった。病期期間は BE 59.40 ± 12.60 か月、NBE 28.80 ± 14.66 か月で BE が NBE より有意に長かった。平均 LES 圧は BE 11.50 ± 4.40 mmHg、NBE 19.50 ± 5.70 mmHg で BE は有意に NBE より低かった。食道炎の重症度の平均

内視鏡スコア (MES) は BE 2.30 ± 0.36 、NBE 2.10 ± 0.38 で有意差を認めなかった。BE 患者の 3 か月、6 か月治療後の MES は初回の MES に比し有意に低く内視鏡所見での改善が認められた。しかし、平均 LES 圧は 3 か月 12.50 ± 3.40 mmHg、6 か月 10.54 ± 4.60 mmHg で初回と有意差を認めず、内科的治療によっても LES の増加は得られなかった。内科的治療が LES に及ぼす影響については、これまで検討されていなかった。BE 患者に対する逆流防止の手術の有効性を主張する論文も認められるが、その役割はまだはっきりしていない。今後、より長い期間の内科的治療が及ぼす影響についても検討されねばならない。また、内科治療による円柱上皮の逆行は認められなかった。

(愛知県がんセンター消化器内科

中村常哉 抄)